

# 『 禅のこころ -曹洞宗- 』

ほうきょう じ  
宝慶寺

令和元年9月第3週放送

北陸の福井県東部、<sup>えちぜんおおの</sup>越前大野の山あい、<sup>すぎばやし</sup>うっそうとした杉林に囲まれて  
<sup>ほうきょう じ</sup>宝慶寺はあります。

大本山永平寺に次ぐ曹洞宗第二の修行道場といわれる<sup>ほうきょう じ</sup>宝慶寺は、今から約七百五  
十年前に<sup>じゃくえん</sup>寂円禅師をご開山として開かれました。

寂円禅師は永平寺を開かれた道元禅師ととても深いご縁をお持ちの方です。今の  
中国、<sup>そう らくよう</sup>宋の国洛陽の出身で、<sup>てんどうざん</sup>幼い頃に天童山で僧侶となり中国各地で修行をして  
いました。天童山に戻り<sup>によじょう</sup>如浄禅師のもとで修行をしていると、そこに日本から道  
元禅師がやって来るのです。道元禅師の仏の道に対する熱意や修行の様子に感激し  
た寂円禅師は、道元禅師のことを師匠と仰ぎ共に修行に励みました。

時がたち、道元禅師が日本に帰国する際、寂円禅師も同行することを懇願します  
が、道元禅師に年老いていた如浄禅師の側にいるようにと諭され、如浄禅師が亡く  
なるまで側に仕えました。そしてその後、師匠と慕う道元禅師に会うために日本に  
渡って来たのです。

それから寂円禅師は、常に道元禅師のもとで修行を行っていましたが、道元禅師  
が亡くなると、一人、<sup>えちぜんおおの</sup>越前大野の<sup>ふもと</sup>銀杏峰（げなんぼ）の麓に分け入り、岩の上で  
坐禅修行の日々を過ごしました。ある時、その土地を治めていた武士が狩りをして  
いると、坐禅をしている寂円禅師に出会い、その姿に心を打たれ、お寺を建立して、  
寂円禅師を御開山に迎えたのです。

時は<sup>こうちょうねんかん</sup>弘長年間、一二六一年前後のことです。数年後に天童山の風景にならって  
お寺の<sup>がらん</sup>伽藍が整備されると、各地から多くの修行僧が集まり、名高い一大修行道場  
となりました。以来<sup>ほうきょう じ</sup>宝慶寺は、<sup>ぜんぶう</sup>寂円禅師の禅風を伝える修行道場であり続けてい

## 『 禅のこころ -曹洞宗- 』

---

ます。

また、宝慶寺ほうきょうじに所蔵されている福井県指定文化財の道元禅師かんばんつ肖像「観月の像」は、道元禅師のお姿しのを偲ぶことができます。そこに記されている詩は、道元禅師の真筆しんぴつともいわれ、歴史的にも大変貴重なものです。

その他にも、寂円禅師が坐禅をしていた「坐禅巖（ざぜんがん）」。

また、岩の上で一人坐禅をしていると、どこからかやってきて、坐禅をすれば側を離れず、托鉢たくはつに出れば共に托鉢をして生涯仕えたという牛と犬が使った頭陀袋ずだぶくろなど、言い伝えを残すものが数多くあります。

越前大野の山々がさわやかなこの秋、皆様も宝慶寺ほうきょうじに足を運んでみてはいかがでしょうか。道元禅師を慕ってはるばる中国から来た寂円禅師のお心を感じることができるでしょう。

— 終 —